

「郷愁」

児童養護施設若松園 園長 津嶋 悟

世界が一つの同じ困難に直面するこの未曾有の状況下において、子どもと職員たちは互いに力をあわせ、置かれた環境の中でいかに豊かな暮らしを営むことができるか知恵を絞り、過ごしてきました。

年間を通じてほとんどの通例行事が中止・規模縮小となり、外出自粛や外部との交流の制限など、ストレスと緊張の途切れることのない生活を余儀なくされました。そのような中にありながらも、子どもと職員たちの忍耐強さと前向きな姿勢には幾度も助けられてきました。

当園には独立したホーム6つそれぞれに子どもの代表がおり、必要に応じて集まり、様々なことを議論する児童会組織があります。その子どものリーダーたちが中心となり、園内で実施出来そうな行事や余暇活動を次々と企画してくれました。

その中でも、感染予防対策やコロナウイルスについて解説する紙芝居を全ホームに出向いて読み聞かせしてくれたことは大きな意味を持ち、大人からだけでなく、ともに暮らすお兄さんお姉さんから教わることで、年齢の小さい子どもたちは手洗い・うがいやマスク着用などの習慣がより早く定着したように思います。

また、多くの外部の支援者の支えがなければ、持ち堪えられなかったであろうことも事実です。マスク等感染予防に必要な物品の備蓄が底を尽きかけた時、いち早く動いてくれたのは地域のみならず、そして企業・個人の方々でした。本来であれば自分のことだけで精いっぱいな状況の中、子どもたちにたくさん心のこもったお届け物を戴き、その度に涙がでました。

この間、出来るだけ機会をつくっては、若松園で暮らす子どもと大人たちに、繰り返し伝えてきた想いがあります。

「状況は確かに苦しい。だけど、置かれた環境の中でいかに楽しむことが出来るか、そのような発想や工夫のできる人間になろう。いまこそ私たちの人間力が試されるときだと思う。」

「この地球規模の災難は人類の歴史の1ページに必ず残る出来事。いずれ当時を振り返り、コロナ禍のなか若松園の子どもたちは困難に負けず災難に耐え、さらにたくましくなると、若松園の歴史にも書き残せるようにしよう。」

この1年間、実に多くの若松園にゆかりのある方々からも連絡や差し入れをいただきました。数年ぶりに声を聴き顔を見ることのできた卒園生。初めてお目にかかった元職員や過去の入所経験者。「ふと若松園のことが気になって」と必ずみなさん口にされています。新型コロナウイルスの流行が我々にもたらしたものの、それは郷愁ともいえるべき、自分の生い立ちやふるさどについて想いを掻き立てる情動なのかもしれない、とここにきて思い至ります。

若松園は、子どもたちにとって「暮らしの場」であり、退所した後は「ふるさと」や「実家」のようであって欲しいと願っています。人は、自分を知ってくれている、理解してくれている心の拠り所があるだけで社会への安定感がぐんと高まります。あるドイツの詩人はこう記しています。

『住まいの在るところが故郷なのではない 理解してもらえるところこそ故郷なのだ』
この災難を経験し、子どもたちの故郷としての児童養護施設の役割と使命について、想いを新たにしたところでもあります。



春の訪れ

春が訪れ、子どもたちもそれぞれ1つ進級しました。今年度は小学校に入学する子どもが3名、中学校に入学する子どもが3名、高校に入学する子どもが3名います。新しい制服や進学するそれぞれの学校に想いを馳せ、きらきら目を輝かせている子どもたち。

小学校が始まる前からランドセルを背負って入学を楽しみにしている新小学1年生の3名。「お友達100人できるかな?」「給食おいしいのかな?」「お勉強むずかしいのかな?」といろいろな気持ちをランドセルに詰め込んで満開の桜の前で『はい、チーズ♪』。

中学生は初めての部活動、高校生は初めての電車や自転車での通学。それぞれの新しいスタートを若松園の大きな桜の木も見守ってくれています。

そしてこの春、これまで若松園で過ごしてきた子どもたちが6名巣立ちました。それぞれの道へ旅立つ姿は大きく逞しく感じました。子どもたちの成長した姿を見ることができた喜びと、「大丈夫かな、できるかな」と心配になる気持ちと、どことなく寂しい気持ちがあります。若松園を巣立ち、生活場所が離れてもみんなのことを応援し続けています。

何もなくてもいつでも帰っておいで!



第41号 発行
社会福祉法人 備作恵済会 若松園

〒703-8261 岡山市中区海吉206番地
TEL (086) 277-2261 (代)
FAX (086) 276-6925
http://www.wakamatsuen.or.jp/



ご寄附・ご寄贈・ご奉仕・ご招待

敬称略・順不同 (令和2年4月から令和3年3月まで)

- 上月義朗 本多立 郷木義子 松岡優子
- 石川ゆきこ 大和徹一 田中純子 福森壽
- 太田一輝 西博 長泉寺住職 宮本龍門
- にしき自動車興業株式会社
- 社会福祉法人山陽新聞社会事業団
- 岡山もたらうライオンズクラブ
- 全三菱自動車・三菱ふそう労働組合連合会
- 国際ソロブチミスト西大寺
- 財団法人 100万人のクラシックライブ
- 寄付者代表 養田秀策
- テンパティ
- 一般社団法人かすがい
- U Aゼンセン日本エクスラン労働組合
- 匿名
- 木下春美 逢沢一郎 神崎史朗 吉田光翼
- 田村敦肖 中田一成 笹倉園子 西博
- 松本陽子 小島秀二 森里子 植田芳江
- 中谷将文 河本準一 西尾晴美 谷山福孝
- 守都末来 馬場栄光 原明子 桑田訓克
- 大和徹一 高木優行 原田恭 松岡優子
- 長田洋和 石井始 山根良子 柳和徳
- 加藤保幸 松澤恵子 長田洋和 佐藤義文
- 小林則子 越智多圭子 西村雄祐 井上雅章
- 伊藤嘉浩 則枝登志子 高木優行 井上仁人・里佳
- 長泉寺住職 宮本龍門
- NO HEROES 山田晋司
- bur rent 行正伸哉
- NPO法人チャリテイーサンタ 河津泉
- PIZZERIA LIBERTA 藤原優輝
- 株式会社タグチ 代表取締役 田口宏之

- 有限会社渋谷商店 セブイレブン NPO法人クロスワイズ
- 有限会社ダスカジャパンクアウテモック 株式会社岡三食品
- 株式会社笹山・板金 特定非営利活動法人あおぞら会
- 株式会社大町 株式会社富永調剤薬局 一般社団法人かすがい
- 株式会社サンヨープレジャー 株式会社たかくら新産業
- 株式会社シグナルプラス 養護老人ホーム報恩積善会 黒住教本部
- 一般社団法人未来 株式会社SEIYU カバヤ食品株式会社
- 株式会社兵衛門 株式会社廣榮堂 屋久島東部茶生産組合
- 株式会社フルーベル館 一般社団法人ぐるーん ホリカフーズ株式会社
- サンポートオカヤマ 株式会社両備エネシス ヤマモリ株式会社
- 中国アイスクリーム協会 株式会社トータルデザインセンター
- カジン株式会社 佐川急便株式会社東京本社 最上稲荷本山奉賛会
- 丸美屋食品工業株式会社 和歌山ノーキョー食品工業株式会社
- 株式会社オール・シー・フードバック ゴールドバック株式会社
- アヲハタ株式会社 いなば食品株式会社 株式会社マルハチ村松
- 株式会社マルハニチロ九州 株式会社イーストウインドカンパニー
- 大買食品株式会社 謙陽食品工業株式会社 日本鏡餅組合
- 荒木組 日本ケンタッキー・フライドチキン株式会社 N i k k o
- 第一生命保険株式会社 こくみん共済COOP(全労災)岡山推進本部
- 株式会社スターディレクション 全国シヤンメリー協同組合
- 国際ソロブチミスト西大寺 はごろもフーズ株式会社 O P G
- 全三菱自動車・三菱ふそう労働組合連合会 デザインルーム小倉
- 株式会社アイテックコーポレーション 株式会社ヒノキラボ
- 片山東眼科医院 セイエル労働組合 おかやまコープ虹の会
- 株式会社源吉兆庵ホールディングス パティスリーアンフルール
- 株式会社社美・Style アサヒビール株式会社 トーアス株式会社
- フルーツ農園 小野山 株式会社ワイティエス
- カープス西大寺Aコープ カープス岡南店 カープス津高店
- カープス邑久ゆめタウン カープス平島サ・ビッグ
- カープス真備ニシナ カープスマルナカ平井店 株式会社明治屋
- 食品事業部三育フーズ 一般社団法人DAGASHIで世界を笑顔にする会
- (公社) 日本缶詰びん詰レトルト食品協会 パティスリーシエルブルー
- 両備ホールディングス株式会社 平福幼稚園PTA事業部 中国銀行基金
- 山陽新聞社会事業団 Yamasui Group Company

- 藤田修代
- 芦田圭子
- 阿南智子
- 砂川にい女
- 四宮照江
- 岸本弘恵
- 藤原政子
- 本同章子
- 石原知子
- 吉澤佳子
- 松本フミ
- 畑中 泰
- 楠本智美
- 高田和昭
- 玉置文博
- 横林美加
- 陶山朋佳
- 植彩佳
- 中司唯
- 森木あかり
- 矢川雅子
- 西村雄祐
- 行正伸哉
- 松岡優子
- カドキヘアシェイパー
- 一般財団法人ぐるーん
- 一般社団法人かすがい
- 学習ボランティアawith
- OPG
- 長坂拓己
- 柳橋泰志
- 前田安菜
- 株式会社トータルデザインセンター
- 有限会社森上煙火工業所
- 黒住教
- 瀬戸内アーツカウシル
- 玉垣夫規子
- 岡山縣護國神社

「きらきら」に対する御意見、御感想がありましたら、ぜひ下記のメールアドレスまでお寄せ下さい。
また若松園に対する質問もこちらのアドレスまでお願いします。
sbw206@ceres.ocn.ne.jp

編集後記

★児童構成★ (令和3年4月1日現在)

きらきら41号を読んで下さり、ありがとうございます。本年度は、園内のホームが小規模グループケア化することや職員数が増える等、生活の様子が変わります。本号にて若松園での新たなホームの様子について知って頂けたらと思います。本年度もよろしくお願ひします! (編集委員一同)

	年少			小学生						中学生			高校生等			合計	
	1・2歳	年少	幼稚部児	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3		
男	0	2	2	1	2	0	0	2	1	2	2	3	2	2	6	0	27
女	0	0	1	2	1	0	2	0	1	2	4	2	1	2	2	2	22
合計	5			12						15			15			2	49

コロナ禍の取り組み

若松園では、新型コロナウイルス感染防止対策として、様々な取り組みを行っております。主な対策として、サーモグラフィー検温器や自動噴霧式アルコール消毒機の設置。ホーム職員や看護師による定期的なホーム内の消毒と換気、職員と子どもの毎日の検温、マスクの着用、食卓へのパーテーション設置などに取り組んでいます。

子どもたちにもコロナ対策の意識づけとして、コロナに負けないための啓発ポスターを描いてもらいました。ポスターは園内に掲示し、これからも予防の意識を高めていきたいと思っております。

児童会の取り組み

児童会が主体となり、コロナ禍でも実施可能なイベントを子どもたちが意見を出し合いながら考えました！夏には園内限定の夏まつり、秋にはハロウィンの仮装を楽しみました♪



コロナ対策ポスター



お知らせ

社会福祉法第82条の規定により、当法人では利用者からの苦情に適切に対応する体制を整えています。

当法人における苦情解決責任者、苦情受付担当者及び第三者委員を下記のように設置し、苦情解決に努めていますので、お気軽にご相談ください。

*若松園 苦情解決責任者 **津嶋 悟**

*若松園 苦情受付担当者 **廣瀬 由貴**
☎086-277-2261

<第三者委員>

*新見公立大学 地域福祉学科 特任教授 **八重樫 牧子**
☎0867-72-0634

*主任児童委員 **來住 久益子**
☎086-274-7983

苦情解決委員会

今年度の苦情解決委員会につきましては、新型コロナウイルス感染防止の観点から書面にてご審議頂きました。

令和2年度における当園の入所児童と保護者からの苦情対応について特別な指示・指導事項はありませんでしたが、ご意見頂きました事項については改善に努めて参りたいと思っております。

情報公開について

定款、現況報告・総括表、決算書、事業報告を若松園ホームページに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

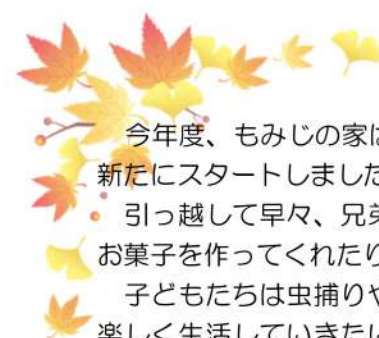
また、ホームページにてブログを更新しています。

子どもたちの日頃の様子、園の取り組み等を紹介しておりますので、こちらもぜひご覧ください。

<http://www.wakamatsuen.or.jp/>

ホーム紹介

もみじの家



今年度、もみじの家は小学生2名、中学生2名、高校生2名、職員3名の9名で、小規模ホームとして、新たにスタートしました。

引越して早々、兄弟で協力し合って机を組み立ててくれたり、台所に立って果物を剥いてくれたり、お菓子を作ってくれたりといろんなお手伝いをしてくれています。

子どもたちは虫捕りやお絵かき、自動車などそれぞれに興味や性格もバラバラですが、皆で団結して、楽しく生活していきたいと思っております。それぞれの個性を大切にし、子どもたちが将来、自分の希望する方向に進んでいけるよう、職員も一緒に悩みながら、よりよい道を切り開いていきたいと考えています。



さつきの家



さつきの家は、4月より幼児2名、小学生3名、中学生5名、高校生4名の男子計14名と職員5名とで生活がスタートしています。

春が訪れ、暖かくなっていくと園内の草花も咲きだし、それに誘われて生き物も一斉に動き出します。それに伴って小学生を中心に虫捕り網や虫籠をもって園庭でトカゲや虫たちを追いかけまわしているような日々です。(とは言っても一年中、グラウンドや園庭を駆け回っていますが...) 夕食後の団楽時は、テレビを観たり、ホームのパソコンを交代で使って音楽を聴いたり動画を見たりしながら、幼児・小学生から高校生まで和気あいあいと過ごしています。子どもたちが明るく元気に外で遊ぶ姿をこれからも見守っていけるよう、子どもたちと大人が相互に助け合いながら日々の暮らしを大切にしていきたいと思っております。



さくらの家



さくらの家は、11名の女の子と5名の職員、計16名での生活がスタートしました。新しいメンバーも入り、また1人ひとりの個性が遺憾なく発揮されると思います。

さくらの家の方針は、1人ひとりの個性を大切に子どもの可能性を伸ばし信じること、さくらの家が子どもたちにとって拠り所であり居心地のよい家であること。そして安心な環境と一緒に作っていくことです。そして1番大切にしたいことは、職員と子どもがお互いに思いやりの気持ちを持ち、生活を共にしていることでの絆を育みお互いが大切な存在として思えるような家になりたいと思っています。まずは職員自身が手本となり思いやる気持ちを子どもたちが抱けるように努めたいと思っております。今年もたくさん子どもたちの笑顔があふれるような1年にしてコロナを吹き飛ばしたいと思います。

